

秋田県における クマによる被害等の状況と クマ対策について



秋田県自然保護課
近藤麻実

秋田県

ツキノワグマ推定生息数

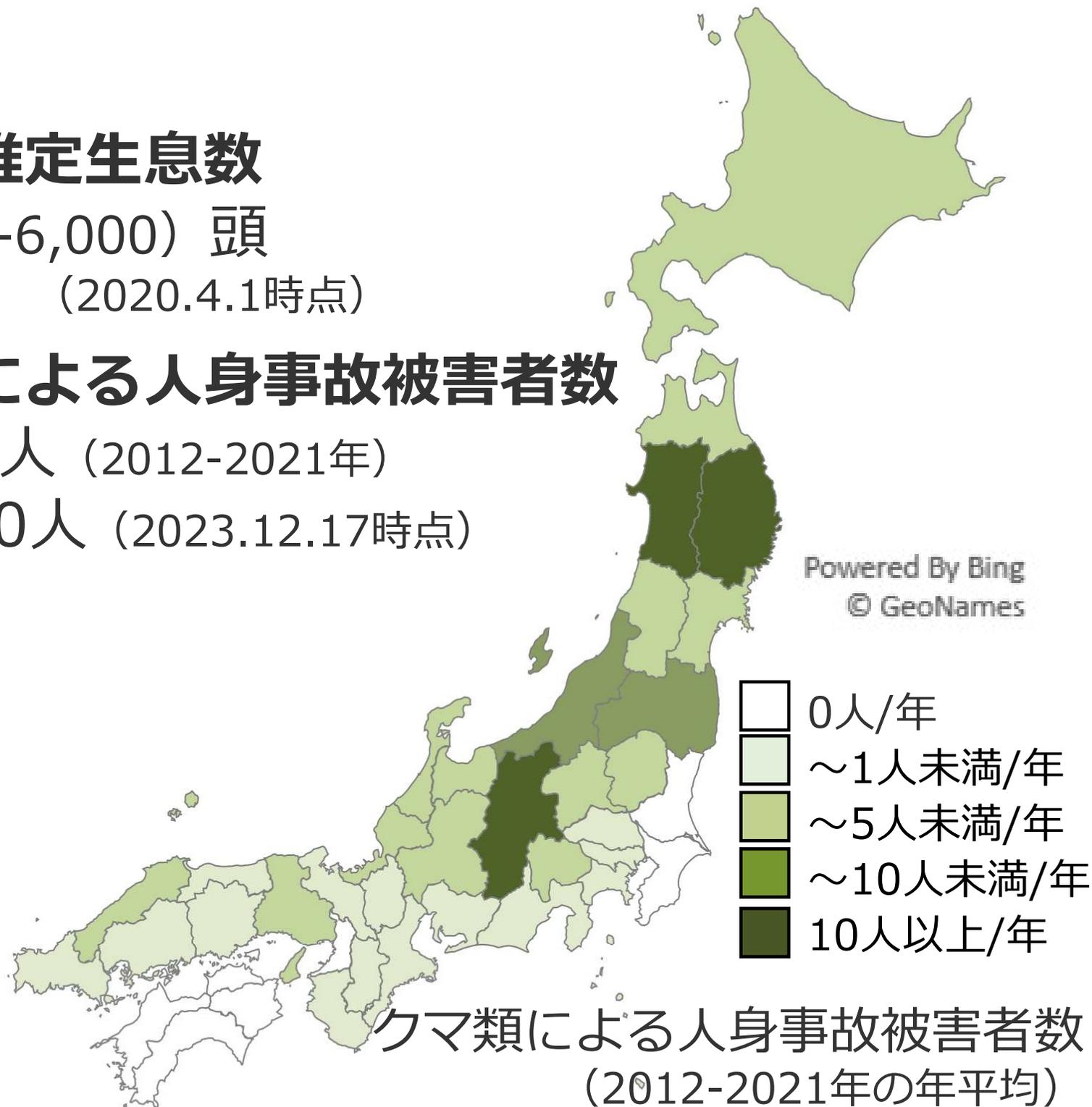
4,400 (2,800-6,000) 頭

(2020.4.1時点)

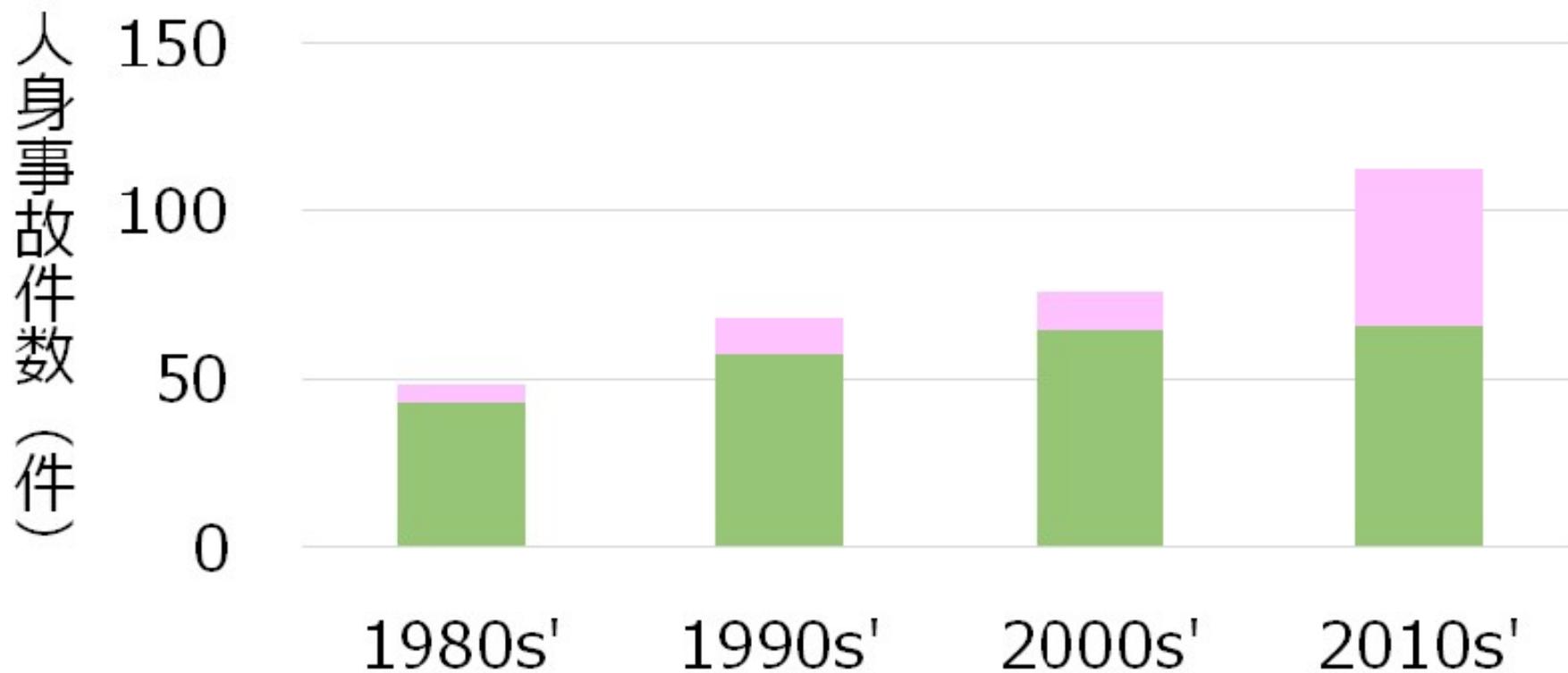
ツキノワグマによる人身事故被害者数

年平均：11.2人 (2012-2021年)

2023年度：70人 (2023.12.17時点)



秋田県における人身事故件数の推移



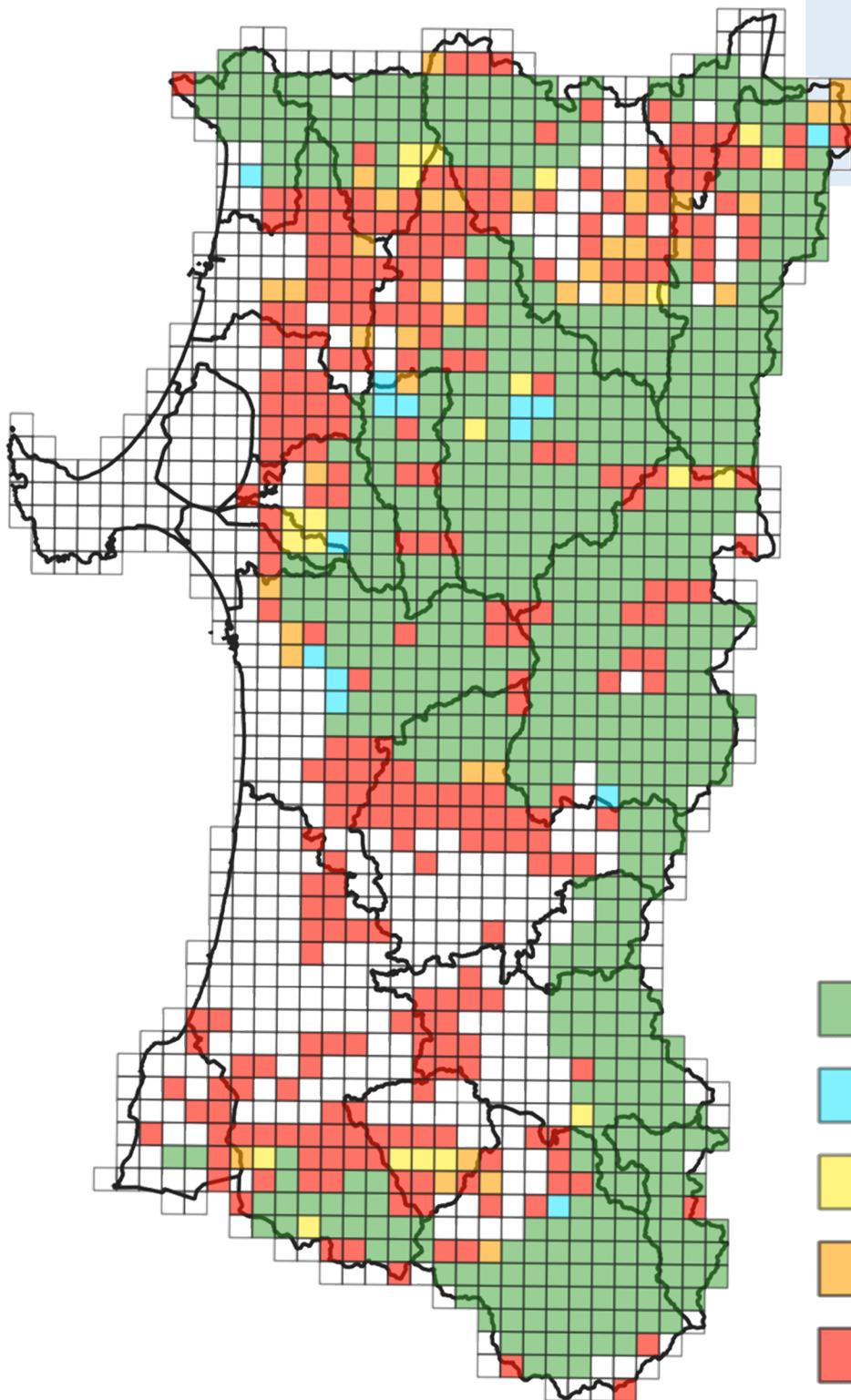
■ 山林

■ 人の生活圏

山菜・キノコ採り中、
登山中など

散歩中、農作業中、
登下校中など

クマの分布拡大



- 第1次ツキノワグマ管理計画 (H15～)
- 第2次計画追加メッシュ (H19～)
- 第3次計画追加メッシュ (H24～)
- 第4次計画 (当初) 追加メッシュ (H29～)
- 第4次計画 (変更) 追加メッシュ (H30～)

"ヒトエリア"の縮小



1970年代



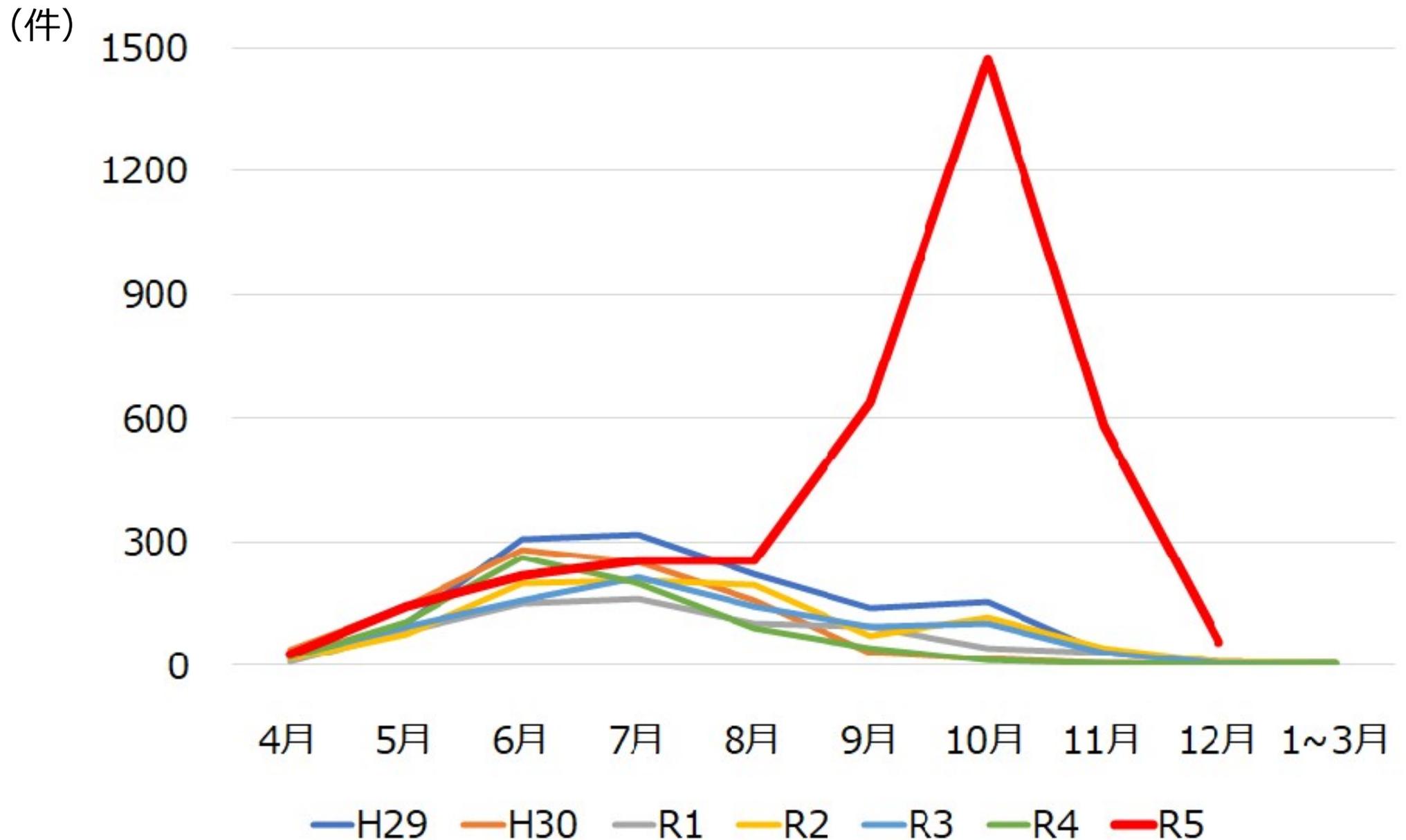
地理院地図

現在



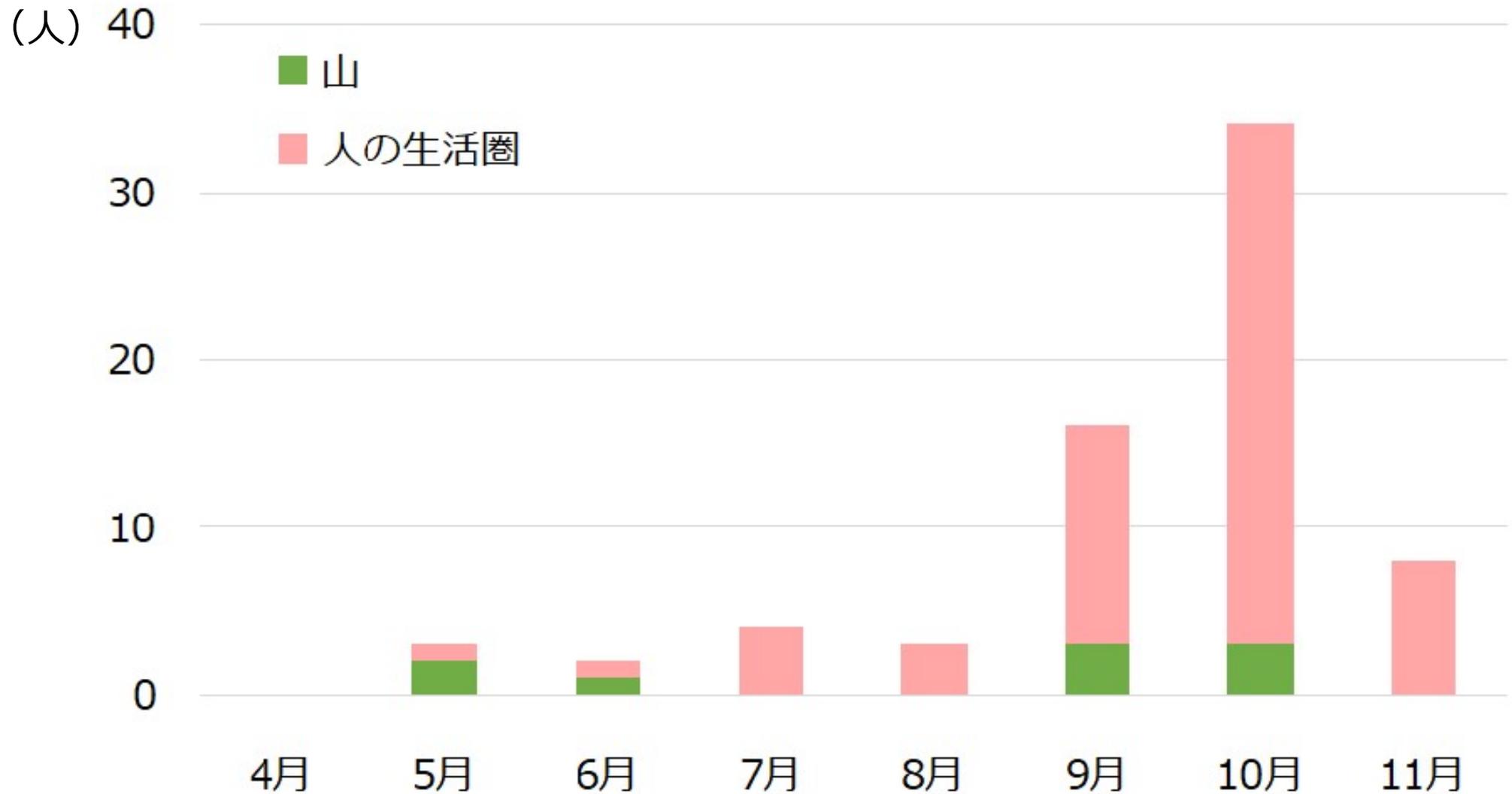
ツキノワグマ目撃件数

秋田県警しらべ
R5.12.11時点



R5年度の人身被害発生状況

R5.12.17時点



秋田県のクマ対策

① 出没・事故を防ぐための対策

- ・ 集落点検
- ・ 緩衝帯整備
- ・ 出没・事故を防ぐ知識の普及
職員研修
あきた県庁出前講座 etc.



② 出没してしまった場合への備え・対応

- ・ 市街地出没対応指針→想定訓練
- ・ 轟音玉講習会
- ・ 出没対応サポート

③ 事故が起きてしまった場合の対応

- ・ 人身事故検証
- ・ 検証結果の公開→事故防止に向けた普及

① 出沒・事故を防ぐための対策



集落点検

① 出沒・事故を防ぐための対策



**緩衝帯
整備事業**

① 出沒・事故を防ぐための対策



職員研修

クマの猛攻を
耐えきった!!



① 出沒・事故を防ぐための対策



あきた県庁出前講座

② 出沒への備え・出沒対応



② 出沒への備え・出沒対応



市街地出沒
想定訓練（実地）

② 出沒への備え・出沒対応



出沒対応サポート

③ 事故対応

現場検証・分析



③ 事故対応

情報発信

秋田県公式サイト

ツキノワグマ

クマによる人身事故概要

秋田県では、人身事故の現場検証を行い、事故の概要や原因、対策事故防止の参考にしてください。（R4.3.18更新）

- ・ [令和3年度人身事故概要 \[3516KB\]](#) ㊦
- ・ [令和2年度人身事故概要\[1623KB\]](#) ㊦

*分析は、[ツキノワグマ被害対策支援センター](#)が行っています。

あきたツキノワだより

[ツキノワグマ被害対策支援センター](#)が発行している情報紙です。クマの活動状況などを発信しています。

- ・ [あきたツキノワだより vol.1 \(R2.7\) \[488KB\]](#) ㊦
- ・ [あきたツキノワだより vol.2 \(R2.12\) \[772KB\]](#) ㊦
- ・ [あきたツキノワだより vol.3 \(R4.3\) \[2133KB\]](#) ㊦

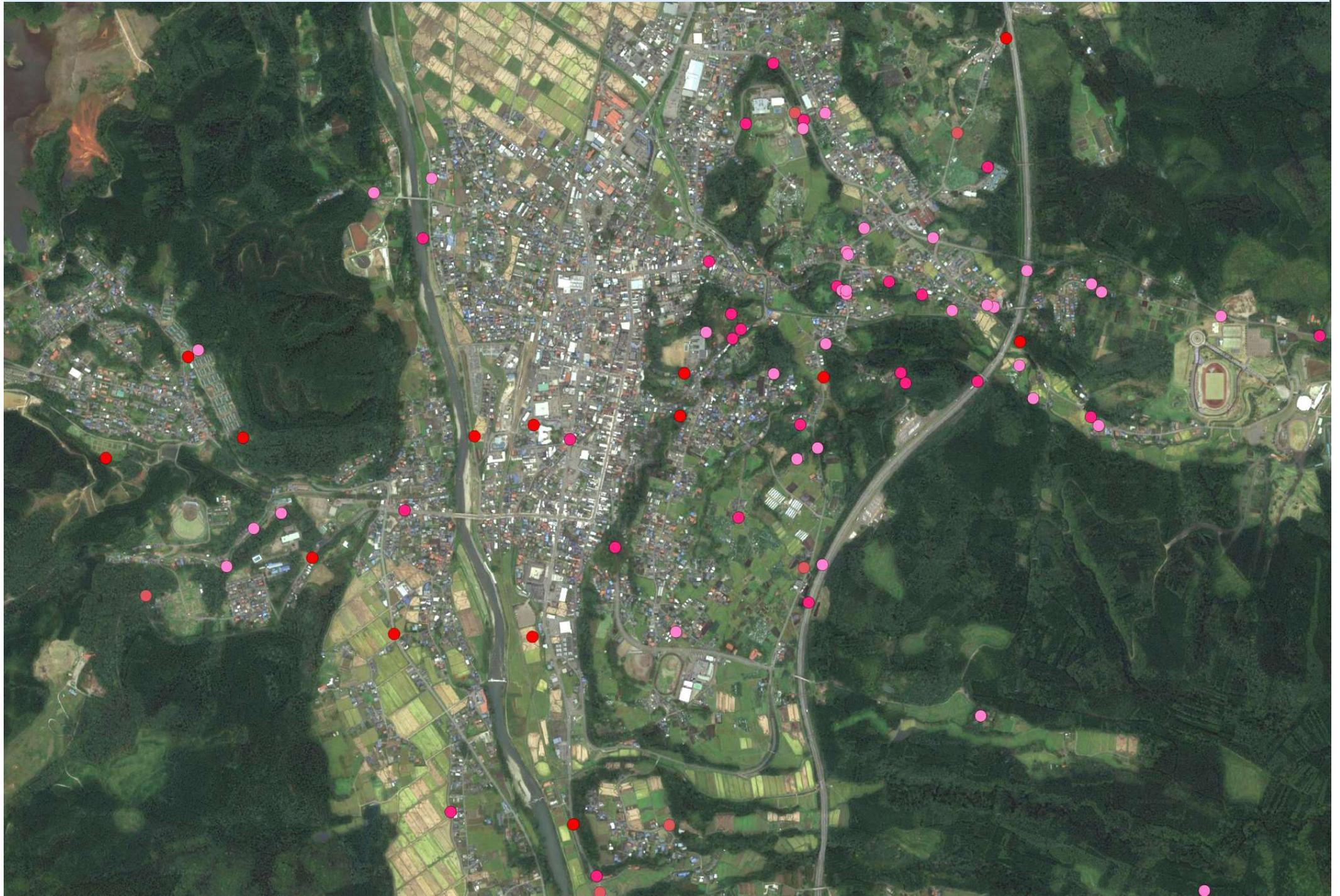
あきた県庁出前講座「クマの生態と対策について」

ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要	畑の草取り中に後ろからクマにぶつかられ、軽傷。	
発生日	年月日	令和2年7月16日
	時刻	16:40頃
	天候	くもり
発生場所	住所	東成瀬村岩井川
	山/里の別	里
	環境	事故発生地点は段々畑の端で、トマトハウスと豆の陰になっている箇所（写真、赤矢印）。近くの林分（写真手前側）からは直線で70mの地点で、その間は畑であり見通しが良い。この奥は2mほど低い位置にもう一枚の畑がある。
被害者	年齢・性別	90歳・女性
	行動目的	畑の草取り
	行動人数	1人
	クマ対策	なし
加害個体	被害状況	軽傷（左肩に爪によるケガのほか、一段下の畑に落下した際に背中を痛めた）
	頭数	1頭
	構成	単独
その他	その他	前掌幅9.5cm
	事故の状況	被害者がしゃがんで（写真手前側を背にして）草取りをしていたところ、後ろからクマにぶつかられ、一段下の畑に転がり落ちた。クマはそのまま逃走した。
考察	明るい時間帯にクマが開けた畑に出てきた理由は不明だが、残っていた足跡からクマは小走りだったと推察され、山際で作業をしていた人間に驚いたか、大型のオスに追われるなどの何らかの理由があり、急いで移動していた可能性が考えられた。また、被害者の位置はトマトハウスと豆の陰であり、クマが被害者を認識したのはぶつかる直前だったと推測される。背後から攻撃したという形にはなったが、クマの移動経路上に被害者が偶然居合わせたために起きた事故と推測され、クマが確信犯的に突進・攻撃したというものではなく、再発の危険性は低いと考えられる。一方で、偶然性が高く予防の難しかった事故と考えられる。	
今後の事故防止に向けて	予防しづらい事故ではあるが、人の気配があればクマが移動経路を変えたかもしれない。農作業中も腰に携帯ラジオをつけるなどして、人の居場所が分かるようにしておくことは有効である可能性が考えられる。	
その他	令和2年度5件目（6人目）の事故	



とはいえ、今年に限らず...



課題：人とクマとの距離の近さ



HVKe #01 M 2023/07/08 04:37:05



HVKe #01 M 2023/07/10 16:58:58



HVKe #01 M 2023/07/13 13:41:05



#22 M 2023/06/22 15:18:53 ○ 020°C



#22 M 2023/06/21 18:26:25 ○ 022°C

人とクマとの棲み分けを目指して

各種研究やモニタリングに係る資金的担保

- ✓ 棲み分けのための手法研究
 - 分布管理方法・侵入ルートへの遮断方法
 - 試行 → 実装（継続的な実施）
- ✓ 繁殖率の推定
 - 捕獲個体の年齢査定、胎盤痕調査など
- ✓ 遺伝子分析
 - サンプル採取 → 分析・保管
- ✓ 定期的な個体数推定調査
 - カメラトラップ調査